

普及啓発事業について

第1 2025 年度普及啓発事業の実施結果について

1 交流セミナーの開催

2025 年 10 月 13 日（月曜日・祝日）に、手話言語及び障害の特性に応じたコミュニケーション手段等を広く県民に普及啓発するためのセミナーを開催した。今年度は聴覚障害を中心に取  
り上げた。また、体験コーナー・普及啓発コーナーでは、さまざまな障害の特性や必要な配慮  
について紹介するパネルを設置することに加え、「手話体験」「筆談体験」「点字体験」「ロー  
ビジョン体験」「手のひら書き体験」を通じて、来場者の皆様に障害の理解を深めていただい  
た。

（1）参加者数

会場参加とあわせて動画配信を実施。

- ・トークショー：参加者数 41 名（定員 80 名）  
※108 名から応募があった（事前申込制）。
- ・体験コーナー・普及啓発コーナー：参加者数 81 名

（2）トークショーのアンケート結果

感想、意見等（抜粋）

- ・とても良い講座でした。ありがとうございました。
- ・コミュニケーションを積極的にとっていこうと思いました。
- ・障害者に関わっている家族の方のお話が聞けて良かったです。

| 参加者の年代 | 割合    |
|--------|-------|
| 30 代   | 11.1% |
| 40 代   | 0%    |
| 50 代   | 33.3% |
| 60 代   | 44.4% |
| 70 歳以上 | 11.1% |

| 障害のある方と関わる機会<br>の有無 | 割合    |
|---------------------|-------|
| ある                  | 44.4% |
| たまにある               | 22.2% |
| ほとんどない              | 33.3% |



| 講演時間について | 割合    |
|----------|-------|
| ちょうど良かった | 88.9% |
| 長かった     | 11.1% |
| 短かった     | 0%    |

| セミナー内容について | 割合    |
|------------|-------|
| よく理解できた    | 55.6% |
| まあまあ理解できた  | 33.3% |
| どちらともいえない  | 11.1% |

| 本セミナーに参加する前と比べて、それぞれの障害者コミュニケーション<br>方法についての理解が深まったと思いますか？ | 割合    |
|------------------------------------------------------------|-------|
| 深まったと思う                                                    | 88.9% |
| 深まったと思わない                                                  | 11.1% |

（3）体験コーナー等の運営団体から提出されたアンケート結果

○ 評価

- ・体験を通じて、障害者とのコミュニケーション方法を実践的に理解していただいた。
- ・啓発効果は高く、参加者の満足度もおおむね良かった。
- ・パネル展示や運営時間については「ちょうどよかった」という声もあり、一定の評価が得られた。

○ 課題

- ・会場のバリアフリー対応が不十分で、移動に不便を感じた参加者がいた。
- ・教室形式の会場で開放感がなく、気軽に立ち寄れる雰囲気ではなかった。
- ・障害者団体の関係者以外の一般参加者への啓発が不十分だった。

○ 改善点

- ・案内や情報保障（手話通訳等）の充実、会場の改善による移動しやすい動線の確保が必要。
- ・開催場所や開催内容の工夫が必要。  
（開放的な場所で開催する。/手話体験は、まず聞こえない状態を体験したうえで学べる  
形式が望ましい。/より多くの団体が体験コーナーを運営する、等）
- ・知的障害や神経難病など、より幅広い障害への理解促進が必要。

## 2 コミュニケーション支援アプリの運用・周知活動

### (1) 運用

使いやすさの向上のため、現在以下の改善を検討中。

- 階層構造の変更
  - ・「わたしの障害のこと・コミュニケーション手段」タブを第1層に表示
  - ・「ぐあいが悪い、痛い」タブを第1層に表示
- 質問画面の改善
  - ・回答者が言葉を自由に記入できるよう、質問画面に自由記述欄（メモ欄）を併設する機能の導入
  - ・利用者が入力した自由記述（フリーワード）を、後から確認・活用できるよう保存機能追加を検討
- 避難所関連項目の変更・追加
  - ・家族構成などのイラストを削除、整理
  - ・「欲しいものリスト」をあいうえお順で表示
  - ・「ほしいもの」リストの内容を精査

### (2) 周知活動

県職員向け手話講習会や交流セミナー等、県主催のイベントで参加者にチラシを配布

## 3 避難所における障害者の情報格差解消を目的とした啓発冊子（避難所小冊子）の作成

- 避難所において障害の有無に関わらず、誰でも必要な情報を取得できるようにするための環境づくりやコミュニケーションの工夫などを紹介した冊子『避難所でのコミュニケーションの工夫－障害のある人も安心して過ごせる環境づくりー』を作成
- 冊子は2025年11月末に納品。今年度は2,000部を作成し、県内54市町村の福祉部局・防災部局、社会福祉協議会等へ配布予定。県のウェブページでも公開。

### 【内容】

さまざまな障害の特性、避難所における困りごと、避難所における環境づくりの例、障害に関するマークやアイテム、手話の紹介、災害用コミュニケーション支援ボードの紹介

## 第2 2026 年度普及啓発事業について

### 1 交流セミナーについて

#### (1) 事業実施方法

プロポーザル方式により 4～5 月中に実施委託事業者を決定し開催業務を委託。

#### (2) 開催場所

名古屋市内で開催。なお、商業施設やホール等が想定される。

#### (3) 開催時期・時間

10 月～11 月の土曜日・日曜日・祝日のうち 1 日

#### (4) 開催内容

今年度の体験コーナーは一定の効果があったと考えられるため、継続を検討しており、トークショーと合わせた開催が望ましいと考えている。一方で、会場により実施できる内容が異なるため、以下の 2 つの実施方法が考えられる。

#### 【例 1】商業施設等のイベントスペースで開催する場合

著名人をゲストに招いたトークショー及び、障害種別ごとの紹介パネルの設置や体験コーナーを実施する。

##### ○ メリット

- ・一般県民との接点が増え、新たな層への啓発効果が期待できる。
- ・障害のある方とのコミュニケーション手段を実践的に体験してもらうことができる。

##### ○ デメリット

- ・講義形式のトークショーの実施は難しい。
- ・動画配信の実施が難しい。

#### 【例 2】ホール等で開催する場合

著名人をゲストに招いたトークショー及び講義形式のトークショーを開催し、動画配信も活用して啓発を図る。

##### ○ メリット

- ・関心のある層を中心に、一定数の集客が見込める。
- ・専門性の高い内容を提供でき、動画配信による啓発も可能。

##### ○ デメリット

- ・参加者が関係者中心になりがちで、啓発対象が限定的となる。
- ・体験コーナーと同時に開催することが難しい。

### 2 コミュニケーション支援アプリの運用

#### ○ 現状

2020 年度の開発以降、アプリの改修を継続してきた。主要な項目の改修は概ね完了しており、今後はユーザーの意見を踏まえた調整・改修の段階に移行する。

#### ○ 次年度の取組

2026 年度は、当事者団体に協力を依頼し、利用者の声を反映した改修を検討する予定。

#### 【スケジュール（案）】

4～5 月 団体との調整

6～8 月 試用期間

8 月 意見集約

9 月～10 月 改修内容決定

11 月～ 改修作業

3 月 改修完了

### 3 避難所小冊子および条例リーフレットの増刷、周知

- 今年度作成する避難所小冊子は最低限の部数であるため、次年度に関係施設・機関へ配布するための増刷を行う。今年度同様、県内 54 市町村の福祉部局・防災部局、社会福祉協議会等へ配布し、避難所での活用を促す予定。

- また、「手話言語・障害者コミュニケーション条例」の周知・啓発を目的として活用してきた条例リーフレットについても、引き続き活用するため増刷を予定している。